

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
青柳涼子・本多敏明			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
青柳 涼子		淑徳大学 コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	SKTb-160601-0	4人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生は調査の企画、調査票の作成、調査票の回収とデータ入力、データクリーニング、集計分析を行い、以上に基づいてレポートならびに報告書の原稿を執筆した。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

地域愛着意識の形成と地域活動

2. 調査の内容/概要：

本調査の目的は、地域社会の資源の活用状況や地域活動への参加状況、地域に対する愛着評価をたずね、人々の地域愛着や地域満足度はいかなる要因から形成されているのかを明らかにすることにある。調査名称は「地域生活に対する住民意識アンケート」である。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

調査対象は、千葉県千葉市緑区おゆみ野中央4丁目・5丁目在住の20～79歳の男女。日本郵便のサービス(タウンプラス)を利用し、当該地域の1057世帯に調査票を全戸配布した。世帯内での回答者の抽出方法は、バースデー法による。

4. 主な調査項目：

主な調査項目は、公園・遊歩道の利用頻度、公園利用に対する意識、地域活動の経験、防犯活動に関する経験と意識、近所づきあい、地域満足度、地域愛着、基本属性(性別・年齢・配偶関係・家族構成・居住形態・居住年数・職業・学歴)、健康意識、日常生活に対する不安感。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：

地域内住民に対する調査票調査(郵送法)

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期は、2016年6月25日から7月17日。調査値は、千葉県千葉市緑区おゆみ野中央4丁目・5丁目。調査法の配布回収は郵送だが、配布のための準備(封入等)は履修生が行った。

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

有効回収票数272票。有効回収率25.7%。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

データ分析にはSASおよびSPSSを利用。

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：

地域愛着の高低と関連する要因を探索的に分析したところ、調査対象者の年代によっては地域活動への参加の程度や地域資源である公園の利用頻度が地域愛着の高低と関連していた。また、居住年数が長いことや日頃、近所づきあいをしていることも地域への愛着を高める要因になっていることが確認された。

ただし、近所づきあいと居住年数と地域活動への参加の程度について関連を分析してみると、居住年数が長いほど密接な近所づきあいが行われたり、居住年数が長いほど地域活動への参加の程度が高まるといった一方向的な関連にはなっていないことなどが明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2017年3月末に調査報告書を刊行済み。